

第21回若手の集いを終えて

若手の集い担当 秋田 紘長*

日本海水学会第74年会が開催された前夜、令和5年6月7日(水)18時から第21回若手の集いが、JR津田沼駅周辺の居酒屋にて開催されました。当日は、6月上旬でありながら気温も30度近くまで上がり、ビール日和の日となりました。対面開催としては、徳島で開催された第19回若手の集い以来4年ぶりとなり、また新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、参加者が少なくなることが危惧されました。当日は2名の学生を含む21名の参加者にお集まりいただきました。また、大変ありがたい事に、今回の若手の集いおよび年会から初参加の方が数名いらっしゃいました。お忙しい中スケジュールを調整してご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

若手の集いは、若手会会長の朝本紘充先生(日本大学)と学会副会長の比嘉充先生(山口大学)からご挨拶いただいた後、倉科昌先生(徳島大学)から乾杯のご発声をいただいて始まりました。宴の中では若手会や学会の在り方、今後の方向性について、企業の方や大学教員、学生と職種や世代を問わず、活発な議論が行われていました。ご参加いただいた皆様が交流や親睦を深めている様子を見て(写真1)、今回の若手の集いも大成功であることを確信いたしました。宴が中盤に差し掛かり、日秋俊彦先生(日本大学)が参加されました。日秋先生からのご挨拶では、本年会と同様に、10年前に日本大学生産工学部津田沼キャンパスで開催された第64年会の実行委員長をご担当されていた時の回想をお話いただきました。その中で、この10年間で日本海水学会や若手会の活動に勢いが出てきており、今後より一層の発展を祈願していると話されているのが大変印象に残りました。宴の締めくくりとして、第74年会 実行委員長をご担当されている松本真和先生(日本大学)から締めのご挨拶をいただき、若手の集いが閉会となりました。その後、有志者にて二次会が開催され、引き続き深い親睦と白熱した議論



写真1 集いの様子

が交わされました。

例年同様、今回の若手の集いにおいても、日本海水学会の皆様をはじめ多くの方のご支援を頂きました。また、若手会会員の皆様、特に(公財)塩事業センター海水総合研究所の佐々木様、亀井真之介先生(日本大学)には、実施にあたり多岐に渡るサポートをいただきました。深く御礼申し上げます。

今年度開催予定の若手会主催の活動計画としては、「第15回学生研究発表会」と「第7回企業研究会」になります。第15回学生研究発表会は、令和6年3月6日(水)～7日(木)に北海道伊達市松ヶ枝町のだて歴史の杜カルチャーセンターで開催する予定です。高等学校学習指導要領の改訂により、「探究型学習」を重点的に置いた学習が求められており、それに関連して高校と大学の新たな連携の取り組みが必要とされています。そこで、今回の学生研究発表会では発表対象者を拡大し、従来の「高等専門学校生」「大学学部生」と「大学院修士・博士課程の学生」に加えて、「高校生(可能であれば1,2年生)」の参加も認める予定です。第7回企業研究会は、第15回学生研究発表会内で開催する予定です。両イベントの詳細は、次号の会告に掲載していますのでご確認ください。多くの方のご参加をお待ちしております。今後も若手会をよろしくお願ひ致します。

* 日本大学 (〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1)
TEL: 043-474-2853, E-mail: akita.hironaga@nihon-u.ac.jp